

2022 年度臨床研究の承認状況

承認番号		課題名	研究責任者	共同研究者	研究の概要
2022-001	承認	栄養サポートチーム活動が生み出す病院利益収入と患者アウトカム	一瀬 直日	板野 靖雄 井川 友加里 河田 しのぶ 真島 真由実	栄養サポートチーム(以下、NST)は、多職種で構成され、栄養リスクのある患者を定期回診し、栄養設計を支援している。NST 活動の内容は各医療機関に任せられており、統一された基準がない。また、NST 活動自体がどれくらいの医療経済的効果を生み出すのかを詳しく測定した報告は未だにみられない。そこで、特定の病棟への NST 活動の強化を行うことで、NST 介入を行っていない患者を含むその病棟全体の収益に繋がるかを活動強化の前後のデータを比較することで検証する。
2022-002	承認	療養型病院職員の SDGs に対する意識と行動の実態調査	河原 紀子	-	岡山東中央病院は、職員一人一人が行動目標を理解し、具現化することが大切だと考える。そこで、職員の SDGs に対する意識を知ること、職員の SDGs に対する意識を知り、取り組みへの課題を明らかにする。
2022-003	承認	減薬を受けた高齢者の信念と不安に関する研究：SCAT による分析	佐藤 航	一瀬 直日	高齢者はそれぞれの疾患に対する投薬を受けた結果、ポリファーマシーが起こりやすい。そのため、薬剤相互作用による有害事象が問題になり、是正が重要である。しかし、減薬に対して患者が抵抗感を示す、あるいは一旦減薬を受け入れた後に処方再開を希望するなど、ポリファーマシーの解消に至らないケースが存在する。入院中に 2 剤のベンゾジアゼピン系を中止したが退院後に不眠を訴えて 2 剤とも再開するに至った患者様にインタビューを行い、その患者様の抱く信念と不安について SCAT を用いて分析する。
2022-004	承認	ストレングスモデルの実践	井上 美佐子	河原 紀子	問題解決モデルが有効な急性期を過ぎ、慢性期または回復して地域医療での療養生活を考える時には、ICF の概念が周知されているが、地域包括ケアシステムが構築された今日では、より患者の持つ長所や強みを活かした「できること」を大切に支援する考え方であるストレングスモデルの視点に切り替えることが求められる時代になっている。療養型病院には慢性疾患を抱え療養生活を送っている患者様が多く存在する。その中で、このストレングスモデルを活用した看護を実践したことで、2 年間寝たきりで胃凄による経管栄養患者様の ADL が、車椅子移乗軽介助、1 回 1200 カロリーの食事(米飯)を全量自力摂取できるまでになり、日常認知症レベルも改善した。
2022-005	承認	認知症看護における病棟看護師のノンバーバルの認識の程度	江田 あい	永井 幸歩 佐竹 真希	認知症看護における、病棟看護師のノンバーバルコミュニケーションの対する認識を明らかにする。
2022-006	承認	なりたい自分になるために	安川 紬	齋藤 裕行	臨床経験を通じて、生涯自分の歯で噛めるように歯科外来患者の咬合の問題について研究を行った。